

スケッチダンス スイッチ OFF

スイッチ OFF は笛吹和義ことスイッチの過去編です。

笛吹正文と和義は仲の良い兄弟です。兄の事は「あんちゃん」弟の事は「スイッチ」と呼び合っていました。二人は共に科学系に才能があり特にスイッチは秀でたものがあり、ついには音声合成ソフトの開発に成功します。そんなスイッチを弟に持つ事を誇りに思う反面、劣等感も覚えるあんちゃん。そんな二人には隣に住む沙羽という幼馴染がいました。あんちゃんと紗羽は互いに惹かれ合っていました。そんな三人の前に紗羽の親友である雪乃が現れます。雪乃は紗羽に自分が中学生の時同級生だった三上という男が紗羽のストーカーになっていること、また三上は中学時代に癩癩を起してナイフを振り回す事件を犯した危険人物である事を告げます。

危機感を覚えた三人はすぐに防犯グッズを買いに行く事を決めます。あんちゃんはスタンガン購入を勧め早速紗羽と二人で買いに行こうとします。しかしスイッチよりスタンガンなんて本当に使えるのか、買うならマスコット人形のようなかわいい物もある防犯ブザーの方が良いとアドバイスします。自分では紗羽を守れないと思ったあんちゃんは、劣等感を抱き器が小さいと自覚しつつも紗羽とスイッチの二人で買いに行くように指示します。急に態度を変えたあんちゃんに「いつも頼りにしているのに。見損なったよ」と告げ、紗羽と二人で防犯グッズを買いに行くスイッチ。

二人が出かけたあと、再度雪乃が現れます。二人で出かけている事を教えるあんちゃん。あんちゃんと紗羽が付き合っていると思っていたと話す雪乃に対し「違うよ。あの二人が付き合っているんだ」と劣等感や嫉妬心から嘘をつきます。「そう」とだけ呟く雪乃。

そんな時、あんちゃんの前に三上が現れます。逃げる三上を追うあんちゃん。三上を取り押さえ、ストーカーの三上だなど迫りますが、三上からは意外な返事が返ってきます。自分はただ紗羽に告白しようと機会を探っていただけ、雪乃は中学の時自分と付き合っていた、しかし感情の起伏が激しい事から別れを決意するもなかなか別れて貰えず紗羽に惚れた事を告げようやく別れて貰えた事、ナイフ事件は中学時代に雪乃自身が起こした事を告げられます。

嫌な予感がしたあんちゃんはすぐに二人のもとに向かおうとします。

しかしあんちゃんより先に二人の前に現れた雪乃。「あんたのせいで…」と紗羽に逆恨みする雪乃。手にはナイフが。紗羽に迫る雪乃。紗羽を逃がそうとするスイッチ。しかしその瞬間向きを変えスイッチに迫る雪乃。ナイフはスイッチの胸に深々と突き刺さります。

雨の中横たわるスイッチ。

遺体を前に号泣する母親から「和義、正文が死んじゃったよ…」と告げられる和義。

警察の取り調べに対し、正文と紗羽が付き合っていると思った雪乃は紗羽の大事な人が死ねば紗羽が苦しむと思い、初めから正文を狙って犯行に及んだ事を知らされます。

スイッチが死んだ？

自分の劣等感や嫉妬心からくるくだらない嘘のせい？

何だ俺のせいか…

長かった髪を切り、伊達メガネを付け、姿をスイッチそっくりにする和義。母親からも「やめてよ」と言われ紗羽からも「あんちゃんがスイッチになるの」と言われます。

そうじゃない。ただスイッチという存在をこの世から失っていけない。そう思っただけ。

紗羽はこの街にいる事が出来ず一家で引っ越します。引っ越しの日、互いに好きだった事を告げる二人。楽しかった三人の頃から二人を失った和義。

当初は学校に通い、自分の事はスイッチと読んでくれと言います。しかしその後どうしてもいく事が出来ず引きこもりになります。

自分のせいで、自分の発した言葉のせいでスイッチが死んだ。和義は言葉を発する事を止めます。

一人部屋に引きこもる和義は正文が完成させた音声合成ソフトを起動。サンプリングされた正文と和義の声を合成し「スイッチ」の声にします。

スイッチは自宅から出ません。ボッスンとヒメコにより救いの手を差し伸べられるその日まで。

物語当初、ノートパソコンで会話するのは、ただのキャラ付け程度に思っていましたが、まさかここまで重い話が待っているとは。

篠原先生自身が、人一人が言葉を閉じる事の重要性を話していますし、もしこのスイッチOFFを描く前に連載が終わればそれはそれで良いと思っていた事も話しています。それほどに重たいテーマに向き合ったと言えます。

ここから単行本にして約20巻後にスイッチONとしてボッスン、ヒメコに救い出されるエピソードが描かれます。

しかしこれだけ重たい過去を知っても、次回から普通にスイッチで笑いを取れるのは篠原先生絶妙の感覚と思います。

ボッスン、ヒメコにも壮絶な過去があります。この三人だからこそその絆と言えますね。